米原市上丹生 水害履歴マップ その②昭和13年、昭和28年、昭和34年 (全4枚)

上丹生公会堂でのヒアリング調査(平成26年8月9日、参加者18名)に基づき昭和13年水害、昭和28年台風13号、昭和34年伊勢湾台風の情報をまとめました。

被害状況

昭和13年水害(日付不明)

・トビを使って、川に流れている流木を引き上げた。
この作業はとても危険で、流されて亡くなった人もいた。

※『とび』…伐採した木を切り出す道具。材木鳶。

被害状況

昭和28年台風13号(9月25日)

・流れてきた丸太や橋桁が橋桁にぶつかった。
・前の橋が次の橋にぶつかった。(橋桁は木であるため、水に浮く)
・養鱒場からマスが道路に逃げ、捕まえられるほどであった。
・大きい石の下が流水に削られ、石が上流に押し戻されていった。
・家の前の石垣が崩れた。
・霊仙で土砂崩れがあった。
・西出橋が流失した。

減災の知恵

・地盤の高い神明神社や公会堂に避難した。
・自警団が危険を判断して半鐘を鳴らし、それを聞いて住民が避難を開始した。
・半鐘を聞いた住民は、周辺を見回りして、情報の伝達(声掛け)した。
・水が石垣に当たる音(ドドーン)+上流からやってくるかなり大きな石の流れる音で、危険かどうか判断した。
・役員6人が指揮を執り、自警団20人が橋板(丸太板)をはずした。
・住民が竹を山から切ってきて、総出で杭とロープを用いて竹流し工法を行った。
・自分たちもロープでくくって安全確保した。
・炊出しを行った。

※『減災の知恵』とは、災害を受け流すために先人たちが行ってきた知恵のこと

当時の新聞記事にも、「マス、湖へ逃げる」の小見出しで、醒ヶ井養鱒場のマスが逃げたことが報じられている。
「朝日新聞滋賀版(昭和28年9月29日)」

被害状況

昭和34年伊勢湾台風(9月26日)

・井尻橋で警戒していたが、一旦離れて戻ってきたら橋がなくなっていた。
・道路舗装の下が陥没した。
・道路が浸されるくらい川があふれた。

※昭和28年台風13号とほぼ同様な水害ということで、時間の都合から詳細は聞き取れていない

その他

・サイレンが導入され(昭和30年から)、半鐘が松尾寺に返納された。
半鐘に寺の名前がかいてあった。

作成:立命館大学歴史都市防災研究室(2015年3月23日)

国土地理院標準地図(2007～)を基に、作成者加筆